

「中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル」 まとめ概要

令和 2 年 2 月
総務省中国総合通信局
(一社) 中国経済連合会
中国情報通信懇談会

中国情報通信懇談会ホームページにて参照・ダウンロード可能
<http://www.cic-infonet.jp/>

「中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル」まとめ 概要

1 ラウンドテーブル開催の目的等

- (1) 目的
- (2) 設立趣旨
- (3) 検討事項・活動体制

2 ラウンドテーブル討議概要

3 まとめ概要

- (1) テーマ1：防災（公共交通）
- (2) テーマ2：防災（水害）
- (3) データの開示方法（形式）
- (4) データの二次利用に向けた著作権表示
- (5) 今後のオープンデータ化の普及・促進
- (6) 今後の取り組み

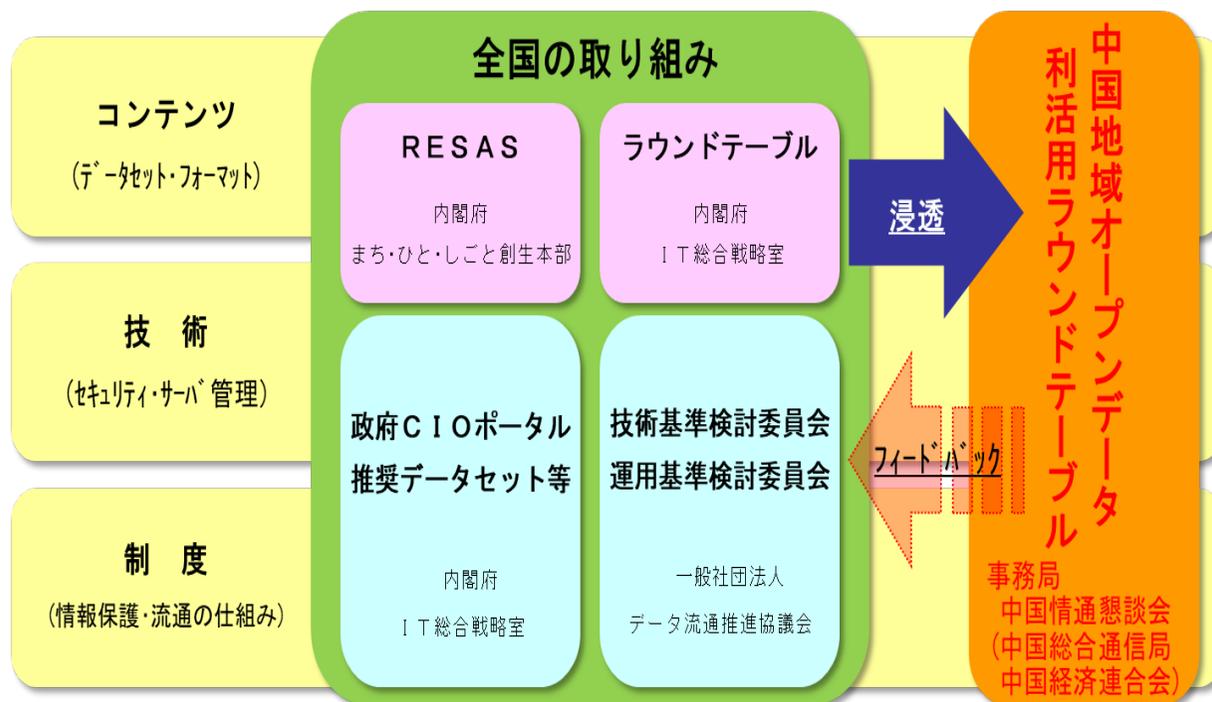
1 ラウンドテーブル開催の目的等

1 目的

オープンデータの推進を国等に義務付ける「官民データ活用推進基本法」（平成28年12月施行）により、政府は、令和2年度までに地方公共団体のオープンデータ取組率100%を目標とすることを閣議決定した。こうした背景を踏まえ、中国地域の地方公共団体のオープンデータへの取組みを加速化し、その利活用の推進。

2 設立趣旨

全国で進むコンテンツや技術・制度の動向を地域内に浸透させ、地域特有の課題や地域にしかないデータについて協議等する場として設立。



【中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル位置付け】

1 ラウンドテーブル開催の目的等

3 検討事項、活動体制

『防災』

(テーマ1:公共交通、テーマ2:水害)

身近に起こりうる自然災害の被害軽減や被災時の復興・普及の迅速化を図るため、通常時、復興時に住民等が必要とするデータを検討し、オープン化の課題整理と共に推奨データセットや推奨テンプレート（アウトプット例）の提案を目指す。

中国情報通信懇談会運営委員会

レビューボード

- ・相原運営委員長（広島大学）
- ・本間局長（中国総合通信局：令和元年7月から）
- ・長塩局長（中国総合通信局：令和元年7月まで）
- ・永野委員長（（一社）中国経済連合会情報通信委員会）
- ・藤原教授（公共交通）（広島大学）

テーブルメンバ

※ ○印はテーブルリーダー

<公共交通>

・大学等有識者

○広島大学 力石准教授

中国地方整備局、中国運輸局、中国地方測量部、
国土地理院中国地方測量部、

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、広島市、

岡山市、倉敷市、（一社）データクレイドル、

西日本電信電話(株)中国事業本部

<水害>

・大学等有識者

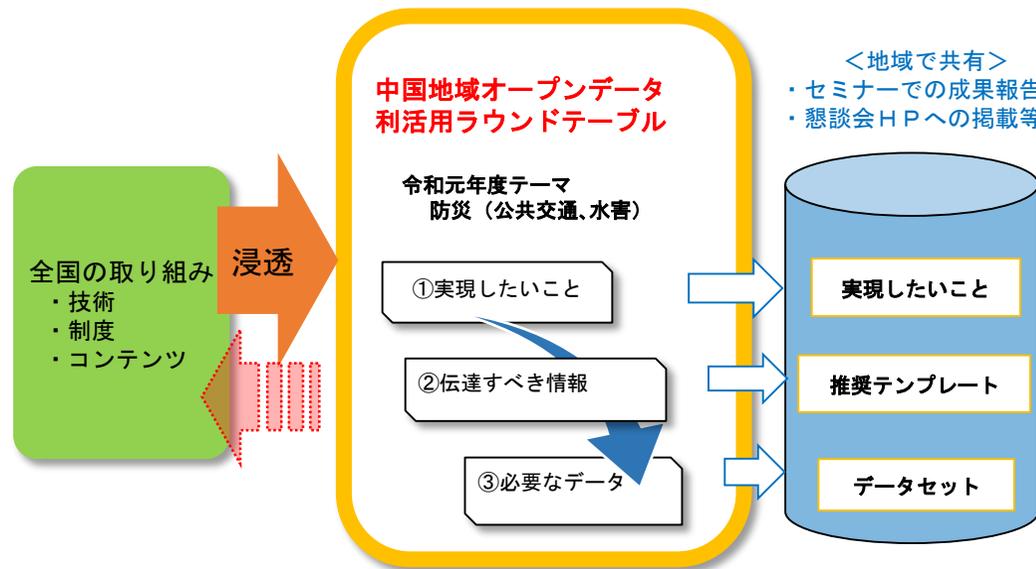
○岡山県立大学 菊井教授

中国地方整備局、中国運輸局、中国地方測量部、
国土地理院中国地方測量部、

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、広島市、

岡山市、倉敷市、（一社）データクレイドル、

西日本電信電話(株)中国事業本部



中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル

事務局

・中国総合通信局、（一社）中国経済連合会、西日本電信電話(株)

2 ラウンドテーブル討議概要

討議経過等

○第1回レビューボード及び第1回ラウンドテーブル概要（令和元年6月17日開催）

- ・設立趣旨、活動内容、テーブルメンバ等を確認。
- ・今年度のテーマを防災とし、「公共交通(テーマ1)」、「水害(テーマ2)」の分野でオープンデータの活用について検討することを確認。また、「広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会」（中国地方整備局等が実施）と連携すること、水害については中国地域5県と2政令指定都市へのヒアリングの実施を確認。
- ・今後の検討スケジュールを確認。

○第2回ラウンドテーブル概要（令和元年9月6日開催）

- ・「公共交通(テーマ1)」、「水害(テーマ2)」の分野で「平時」及び「復旧・復興時」において住民、行政にとって「実現したい情報」について議論。
- ・「公共交通(テーマ1)」については「広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会」で道路稼働状況を高速道路、国道、県道等を一つのマップで表示すること検討中との報告。引き続き、実現したいことについては検討を進める。
- ・「水害(テーマ2)」については、5県2市のヒアリング報告を受け、「実現したいこと」を整理し、それに必要なデータ状況等を確認するため5県2市にアンケート調査の実施を確認。

○第3回ラウンドテーブル概要（令和元年11月13日開催）

- ・「公共交通(テーマ1)」については、「広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会」の検討状況の報告を受け、同検討会の結果を「公共交通(テーマ1)」の参考にすることを確認。
- ・「水害(テーマ2)」については、ヒアリングやアンケートの状況を踏まえ、「実現したいこと」を整理し、実現するためのデータセットを確認。
- ・また、データについてオープンデータとして公表されている形式等についても意見交換。
- ・ラウンドテーブルまとめ(案)について、議論。

○第2回レビューボード及び第4回ラウンドテーブル概要（令和元年12月19日開催）

- ・「まとめ(案)」及び「まとめ概要(案)」を提案、同意。
- ・推奨テンプレート(アウトプット例)の表示説明。
- ・今後の取り組みについて議論。
- ・中国情報通信懇談会顧問等会議に成果報告後、報道発表。

3 まとめ

1 テーマ1:防災(公共交通)

「広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会」において、被災時の通行止め情報、渋滞情報（移動時間情報）、鉄道・バスの運行情報等について、既に必要とするデータが整理され、関係団体間の共有について議論が進められており、災害時や復旧・復興等に活用される体制が整えられつつある。今後、引き続き連携しながらデータを有効に活用できることを目指す。

2 テーマ2:防災(水害)

- 「平常時」、及び「復興・復旧時」における「実現したいこと」を整理し、それを実現するために必要なデータを、倉敷市真備地区での事例を参考に整理(別添1-1)。
- 必要なデータをオープンデータ化することで、そのデータを有効に活用することができ防災に関する『必要な情報』を『必要な時』に住民や被災した方へ提供することで防災・減災に貢献。

3 データの開示方法(形式)

(1) 形式の統一

- データが独自のデータ形式で提供されることは、データ活用にとって非効率で課題。
- その課題を解決し、防災に関する『必要な情報』を容易に入手するためには、データ形式の統一が重要。
- 倉敷モデルを参考に「データセット」及び「データ形式」(別添1-2) (並びに「推奨テンプレート(アウトプット例)」(別添2から別添5)を示した。

(2) 機械判読性に配慮したデータ開示方式

- データがPDF形式で提供されることは、機械判読出来ないため二次利用に制限。
- その課題を解決し、防災に関する『必要な情報』を容易に入手するためには、人による判読性に優れた形式(HTML、PDF形式等)と機械判読に配慮した形式(CSV形式等)で開示することが重要。

3 まとめ

4 データの二次利用に向けた著作権表示

- 必要なデータが公開されたとしても、二次利用の可否について表示されていない例が判明。
- **オープンデータ公表されているデータについて、二次利用可能とする『CC BY (Creative Commons Attribution(クリエイティブ・コモンズ)注)』を記入するなど、明確な意思表示を行い、自由に活用できることをデータの活用に伝えることが重要。**

注:「CC-BY」は、原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示することを主な条件とし、改変や営利目的での二次利用も許可されるライセンス

5 今後のオープンデータ化の普及・促進

- 防災分野でのオープンデータ化し、**二次利用を促進するための課題が改めて整理され、その解決方法についても一定の結論が示すことができたことは、当該地域にとって非常に有意義。**
- データ形式が統一され、機械可読に配慮したデータ形式で二次利用が容易となるオープンデータ化を促進するには、自治体首長や関係部署、関係機関、国の行政機関等、**公共データを所有する者に対して、理解を広げていくことが重要。**
- こうした取り組みが、他の地域（中国地域以外）に広がりオープンデータ化への加速に繋がることも期待。
- また、民間企業等においても、**オープン化されたデータを積極活用したアプリ等の開発が進めば、相乗的にオープンデータ化の進展も期待。**

6 今後の取り組み

- 「まとめ」をあらゆる機会を捉えながら説明しつつ、オープンデータ化の進捗状況を確認。
- また、二次利用可否の状況等を調査等するなどフォローアップの取り組みを進める。